



TITLE:

北京だより

AUTHOR(S):

小野

---

CITATION:

小野. 北京だより. 東洋史研究 1938, 4(2): 165-165

ISSUE DATE:

1938-12-25

URL:

<https://doi.org/10.14989/145636>

RIGHT:

奥村 いや、内藤先生はそのちよつといはれることがなかなかうまかつた。人を見て法をといた。

水野 そんならこゝに馬遠が四枚ある、どれがよいか、めいめいにきめようか。

小川 寫眞ではよくわからん。

奥村 いや、面白いからやつて見よ

う。

(このあたりになると、ますます佳境に入つて来る、到底筆舌のようくつせるところでない。よつて記者は斷念したが、大體の雰囲気から、これからさきのありさまもだいたい御想像ありたい。そして最後は……)

奥村 やつぱり實物が早う見たいもん

や。

内藤 まあそれまでの準備に寫眞でもかまはんから、今夜のやうな會をまたやつて見よう。

皆 よからう、よからう。

(みづの・せいいち)

北京だより——一日、今西君とふたりで西城の護國寺

を見に行きました。護國寺については既に營造學社彙刊に報告がありますが、ていねいにしらべると仲々興味を覚えます

金堂にも當るべきかの千佛殿の裏にある護法殿で、喇嘛式の甃壁を見てゐると今西君をすてきによるこぼせた繪が見つかりました。甃壁は東西兩側にあるもので營造學社の報告に見えるものですが、運筆彩色ともによく、はじめは元のものかと思はれるほどでしたがよく見ると少し降り明頃のもののやうです。

こゝには三尊佛を初め例の姚廣孝の木像などが數體あり、なほ殆んど腐朽した佛像も多數積みかさねてありました。こ



れらも又明代のものと思ひますが、姚氏の像は勿論阿難迦葉像などでも、仲々寫實的に優れて居ります。

なほ護法殿の礎石は二種あり、一種は清朝頃盛に使用されて居る形ですが、他は元の遺構を傳へて居るのではないかと考へられます。此殿は最早すつかり荒れ、屋根なども大穴があいて居る有様なので、あのまゝでは遠からず千佛殿の轍をふむものと思ひ保護の必要を叫ばざるを得ませんでした。

殿前に唐獅子二個あり、村田博士は北京第一と折紙をつけて居られますが、成程立派で創立當初のものでせう。なほ例の金銅半伽菩薩像は後部藏經閣(後樓)内に健在です。小野生